

## 令和3年度 第2回千葉県水産振興審議会 議事概要

1 日 時 令和3年11月15日(月) 14:00～15:30

2 場 所 県庁南庁舎4階収用委員会審理室

3 出席委員数 8名(欠席:石井委員、山下委員)

4 傍聴者 読売新聞、千葉日報

### 5 議題

- (1) 次期千葉県農林水産業振興計画の策定について
- (2) 千葉県スマート水産業推進方針(案)について
- (3) その他

### 6 議事概要

事務局から出席委員数の報告等を行い、審議会が成立していることを確認した。

#### 議題(1) 次期千葉県農林水産業振興計画の策定について

次期千葉県農林水産業振興計画の策定状況について、県から資料1-1から1-3-7により説明した。

資料1-1: 新たな総合計画 骨子素案【概要】

資料1-2: 次期「千葉県農林水産業振興計画」の策定について

資料1-3: 部門別戦略の概要(案)～水産資源の持続的な利用と水産業の成長産業化～

資料1-3-1: 資源評価の高度化と適切な資源管理措置の実施(ほか)

資料1-3-2: 漁業・養殖業の生産性向上(スマート水産業の推進)

資料1-3-3: 東京湾漁業の振興

資料1-3-4: 流通構造の改革(銚子・勝浦など流通拠点整備、小規模市場の水揚げ集約化)

資料1-3-5: マーケットインの発想で水産物の需要拡大(水産バリューチェーンの構築)

資料1-3-6: 担い手の確保・育成(船団等が新規就業者を支援する育成モデルの構築)

資料1-3-7: 多面的機能の発揮の促進

(環境・生態系保全、海に関わる食文化・芸術・生活習俗に着目)

#### (質疑応答)

(委員) 担い手について、漁業者は高齢化しており、若い人が入ってこない。館山市には館山総合高校に海洋科があるが、入学者が少ない。高校生が入ってこない、沿岸漁業の後継者が無くなり、途絶えると考えられる。海洋関係の高校に入学するような具体的な対策はあるか。

(県) 高校生を対象としたインターシップにより漁業の体験ができるが、入学前は、学校給食への食材の提供や、漁業者のリーダーとして活動している漁業士が地元の小

学校に行って、漁業の魅力に関する紹介をしている。

(委員) 子どもたちの魚離れが起きている。日本は海洋国で漁業は食を支えているというPRを、市町村ではなく県で予算付けもしてほしい。

(委員) 県だけではなく関係団体でも考えなくてはならない問題だと思っている。今年には館山総合高校から千葉県水産振興公社に2名入っている。海が好きで船に乗る方もいれば、海に携わりたいという人もいる。働きながら自分と適性が違うということであれば、漁業をしてみたけれども市場や仲買で働けるように、幅広く対応できるようにしていければと思っている。

(委員) 漁業に転職するまではイメージが悪く、漁業を始めてから良いものだと分かったという漁業者がいた。漁業に対するイメージの悪さを変える必要がある。

また、県外や、県内でも館山から遠い地域から館山総合高校に入りたいという人がいるが、生活のため親が同伴しないと入学できない。他県では、県外からも入学できる学校がある。千葉県でもできるように、県で対応していただきたい。

(県) 学校教育について新しいことを聞いたので、教育の部局とも相談し、できることについては対応していきたい。

(委員) 地元の子どもから漁業者になる人がでてくるように、地元の小学生に船に乗ってもらって、海の上から学校を見るといった活動を毎年しているが、漁業者になる人はいない。所得が向上すれば、漁業者になる人は増えると考え。県から漁業者に、所得が向上する取組を指導してもらいたい。

毎年、館山総合高校から1人か2人程度くるが、漁業は特殊な仕事のため、定着率が悪い。また、来年から外国人が3人くる予定だが、アパートを借りるのに断られるような状況。

(県) 所得向上については、水産資源管理の取組と、価格対策として流通の拠点化や生産から販売まで考えていくバリューチェーンの取り組みで高く販売することにより、頑張っていければと考えている。

(委員) どのくらいの所得があれば良いと考えているか。

(委員) 衣食住付きで、400万円あれば良いと思う。

## 議題(2) 千葉県スマート水産業推進方針(案)について

千葉県スマート水産業推進方針(案)について、県から資料2-1及び2-2により説明した。

資料2-1: 千葉県スマート水産業推進方針の策定について

資料2-2: 千葉県スマート水産業推進方針(案)

(質疑応答)

(委員) 漁業において、アシストスーツはどのような作業に使用するのか。

(県) 漁船漁業では網を揚げるといった腰に負担がかかる作業で使用できればと考えている。また、養殖業でも籠を揚げる作業等で使用できればと考えている。

### 議題（3）その他

（質疑応答）

（委員）火山の噴火による軽石について、これから関東に押し寄せそうだが、情報の把握と現時点での対応について教えてほしい。

（県）海上保安部、気象庁、国、関係都県から情報を集めている。現状では沖縄周辺にかなり漂流・漂着している情報がある。四国から千葉県にかけては、四国沖で漂流していることを海上保安部が確認している。マスコミや東京都の情報から、式根島や大島で一部漂着していることを確認している。

対策については、県の水産情報通信センターの漁業無線を通じて、漁船関係者への注意喚起や、沖で見かけたら報告してもらうようにしている。さらに、県漁連、漁協関係や、加工連を含めた加工業者に対しても、同じく注意喚起や情報があれば情報提供をお願いしている。また、仮に漂着するような場合には、オイルフェンスで対応する方法も検討している。ただし、技術的な問題もあるため、国がワーキンググループを設置して、様々なことを検討しているので、そのような情報も把握しながら、県の水産部局で備蓄しているオイルフェンスを使えるように準備している。

（委員）軽石については、オイルフェンスの設置を誰が行うのか、回収方法はどうすれば良いのか、回収後の処理はどのようにすれば良いのか、市の職員が悩んでいるため、どのようにすれば良いのか情報を提供してもらいたい。漁業の生活を守るためにも、漂着した場合どのようにすれば良いのか教えていただきたい。

（県）オイルフェンスの設置については燃油対策をする組織に、設置方法について指導をお願いしている。回収方法についても、国交省のワーキンググループで検討しているので、情報が入ったら情報を提供する。

（県）国交省のワーキンググループでは、いくつかの回収方法を検討している。バックホーンに網を付けて回収する場合の適切な網目の大きさの検討、サンドポンプでの回収効率についての検討、陸上から回収できない場合にバックホーンを付けた台船を使用した方法を検討しているといった情報があるので、情報が入り次第、市町村に提供する。